

第1章 第4次計画に向けて（第3次計画の実績と課題）

1 計画策定の背景

近年、テレビ・インターネット・スマートフォン・ゲームなど様々な情報メディアの普及や生活環境の変化などにより、子どもの余暇時間の過ごし方も多様化してきています。

そのような状況の中で、子どもの「読書離れ」「活字離れ」が指摘されてきていますが、令和4年5月に全国学校図書館協議会が行った第67回学校読書調査^{*1}によると、児童・生徒の1か月の平均読書冊数は、小学生は前回調査（令和3年実施）より0.5冊増の13.2冊、中学生は0.6冊減の4.7冊、高校生は増減なしの1.6冊となっています。

また、1か月に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合は、小学生が6.4%、中学生が18.6%、高校生は51.1%と学年が上がるにつれて高くなっています。

令和4年9月に読売新聞社が大人（18歳以上）を対象に行った「読書」に関する全国世論調査^{*2}では、1か月の間に本を1冊も読まなかった人が全体の52%でした。

読書活動は、人として生きる力^{*3}を育む上でも極めて重要で、子どもの読書活動の推進は大人を含めた社会全体の課題となっています。

今後は、家庭、保育所・幼稚園・認定こども園、学校、地域それぞれが、子どもの読書活動を推進するために様々な手段・手法を活用しながら、自らの役割を果たしていくことが必要となります。

*1 「第67回学校読書調査」：1954年より小学生（4年生以上）・中学生・高校生を対象にした読書調査。毎回1万人以上の児童生徒を対象にするもので、子どもの読書に関する長年にわたる定点観測として日本で唯一の貴重なデータ。全国学校図書館協議会と毎日新聞社が共同で実施してきたが、今回（第67回）より全国学校図書館協議会の単独実施となった。

*2 「全国世論調査」：秋の「読書週間」を前に、読売新聞社が行った「読書」に関する全国世論調査。（調査日＝8月22日～9月27日（郵送） 対象者＝全国の有権者3,000人）

*3 「生きる力」：自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などをいう。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会審議報告（平成18年2月13日）で示された能力。

2 子どもの読書活動の意義

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年法律第 154 号）」の第 2 条（基本理念）には、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」とあり、子どもにとっての読書活動の重要性が明記されています。

子どもは読書により、読書の楽しさや広い世界を知り、発見や感動を体験し、自ら学び自ら考え、主体的に判断する力を育て、他人を思いやる心を身に付けることができます。

さらに、読書を通じて数多くのよい文章に触れることにより、数多くの言葉を覚え、文書を書く力など国語力の向上が期待できます。これらは、専門的な学習を受けるための基礎学力として、また、生涯にわたる学習の基礎として大変重要で意義あることです。

3 子どもの読書活動に関する国及び静岡県の動向

<国の動き>

国は、平成 13 年 12 月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、平成 14 年 8 月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定して、5 年間にわたる施策の方向を示しました。第一次基本計画の期間満了に伴い、平成 20 年 3 月に第二次基本計画が、さらに平成 25 年 5 月に第三次基本計画が策定され、現在は平成 30 年 4 月に策定された第四次基本計画の期間となります。

また、平成 26 年には「学校図書館法の改正」が成立し、専ら学校図書館の職務に従事する職員としての学校司書の法制化、学校司書への研修等の実施について規定されました。

<県の動き>

静岡県における子ども読書活動の推進については、平成 16 年 1 月に策定した「静岡県子ども読書活動推進計画」（平成 23 年 3 月「第二次計画」策定）や、静岡県読書活動推進会議の協議に基づいて施策を展開してきました。平成 30 年 3 月には令和 9 年度までの 10 年間を見越した第三次計画を策定し、全ての子どもが自主的に読書に親しむ習慣の確立を目指しています。

現在は、令和 4 年 3 月に策定された第三次計画の後期計画期間中（令和 4 年度から令和 7 年度まで）です。

4 第3次計画数値目標の実績

静岡市では、一人ひとりの子どもが自然に読書に親しむことができるよう、子どもの読書環境を整備する施策を総合的に推進することを目的として、平成27年度に「静岡市子ども読書活動推進計画」（以下「第3次計画」）を策定しました。その中で設定した数値目標と実績が下表のとおりです。

【第3次計画の数値目標と実績】 ※令和元年度に目標の中間見直しを実施しました

目標項目	《実績》 平成27年度	《実績》 令和3年度	《目標》 令和4年度	参考 《県の目標》 令和3年(2021年)	評価
図書館の児童図書の蔵書冊数(12歳以下の子ども1人あたり)	7.5冊	8.2冊	8冊以上	—	A
図書館の児童図書の年間貸出し冊数(12歳以下の子ども1人あたり)	16.7冊	19.7冊	17.5冊以上	22冊	A
図書館の「学校協力貸出し」の年間貸出し冊数	14,778冊	22,278冊	15,000冊以上 ※10,000冊以上から修正(令和元年度)	—	A
朝読書、読み聞かせ等全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合	—	小学校 98.7% 中学校 94.6% 小中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100% 高校 90%	C
1か月にまったく本を読まない児童・生徒の割合	—	小学生 0.99% 中学生 12.9%	小学生 0% 中学生 0%	1週間に1度は本に親しむ子どもの割合 小学生 80% 中学生 60% 高校生 50%	C
読書週間や「子ども読書の日」等に読書啓発に取り組んだ学校数の割合	—	小学校 98.7% 中学校 81.1% 小中学校 71.4%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100% 高校 75%	C
学校司書等を配置している学校数の割合	—	小学校 100% 中学校 100% 小中学校 100% 高校 100%	小学校 85% 中学校 85% 高校 100%	95%	A
司書教諭や学校司書等が読書指導や学校図書館の機能を活用した授業の支援等を行う時間を位置付け、実施している学校の割合	—	小学校 98.7% 中学校 94.6% 小中学校 100%	小学校 100% 中学校 90% (司書教諭・学校司書配置校を対象とする)	100%	C

【評価について】

- A：令和3年度実績が、平成27年度実績・令和4年度目標ともに上回った項目
- B：令和3年度実績が、平成27年度実績を上回ったが令和4年度目標に達しなかった項目
- C：令和3年度実績が、平成27年度実績・令和4年度目標ともに達しなかった項目

5 「第3次静岡市子ども読書活動推進計画」取組状況一覧

整理番号	区分	対象	取組名	内 容	令和3年度実績	達成度	担 当 課
1	認定こども園等(2)	乳児幼児	お薦めの本の紹介	絵本コーナーを子どもや保護者の見やすい場所に設置し、新しく入った絵本やおすすめの絵本を見やすい場所に掲示します。また、絵本だよりを発行します。	各園で絵本コーナーを玄関などの保護者が見やすい位置に設置し、季節の絵本、おすすめの本、子ども達に人気の絵本などを掲示した。また、絵本便りでは新刊絵本や子ども達に人気の絵本や紙芝居などを紹介した。	A	こども園課 幼保支援課
2	高校(3-3)	高校生	ブックリストの作成や推薦図書コーナーの設置	各学校で独自に推薦図書のブックリストを作成したり、実際に手に取って見てもらえるように学校図書館や廊下などに特設コーナーを設置したりして、子どもたちに積極的に本の紹介をします。	生徒図書委員会が、おすすめ本の小冊子を作り生徒に配布した。新着図書情報、図書館だより、図書館ニュースを発行し本の紹介を行った。また、1年生が春休みの課題として提出したPOPを掲示し、読書への興味を喚起した。日々の読書活動や読書感想文の選書にも役立てさせた。選書ツアーを2回実施し、生徒自ら書店(万栄堂・戸田書店)に向いて選書し、図書館に特設コーナーを設けた。	A	教育総務課
2	小学校 中学校(3-1) (3-2)	小学生 中学生	ブックリストの作成や推薦図書コーナーの設置	各学校で独自に推薦図書のブックリストを作成したり、実際に手に取って見てもらえるように学校図書館や廊下などに特設コーナーを設置したりして、子どもたちに積極的に本の紹介をします。	静岡市立各小・中学校で実施学年別お薦め本リストや特設コーナーを作成したり、教科書掲載本のコーナーを設置したりしている。 小中一貫グループ校共通の推薦図書リストを作成している学区もある。(美和中・清水興津中・清水袖師中・南中など)	A	教育センター
3	図書館(4-1)	すべての子ども	ブックリストの作成・改訂	図書館では、子どもの年齢にあったよい本を紹介するためにブックリストを作成し、子どもと本の仲立ちをします。また、最近の本も紹介できるように、改訂版を定期的に作成します。	令和5年度発行予定の「このほんばーった！」絵本編改訂への準備	A	中央図書館
4	図書館(4-1)	小学生 中学生 高校生	子ども向けパスファインダーの発行・改定	図書館では、子どもの調べ学習を支援するために子ども向けパスファインダーを作成します。また、最新の情報を提供できるように、改訂版を定期的に作成します。	令和2年度に引き続き改訂作業を行い、新規13テーマを含む全50タイトルを「ブック通リスト+」と名称も変更して発行	A	中央図書館
5	認定こども園等(2)	乳児幼児	お便り等を活用した保護者への啓発	保護者へ図書だよりを発行します。また、日々の保育で子どもたちが興味を持っている本や読み聞かせしている本の紹介をし、関心を持ってもらいます。	定期的に絵本便りを発行して、子ども達に人気の絵本やおすすめの本を写真入りなどでわかりやすく紹介したり、実際に展示したりして興味や関心を持ってもらうことができた。	A	こども園課 幼保支援課
6	小学校 中学校(3-1) (3-2)	小学生 中学生	お便り等を活用した情報提供	子どもたちに読書の大切さを伝えるとともに、親子読書や読み聞かせ等を、家庭でも行ってもらうように学校からの図書館便りや学年・学級だよりを通じて、各家庭に呼びかけます。	静岡市立各小・中学校で実施図書館便りや学年便り等で読書の啓発 小中一貫グループ校で共通の図書館便りを作成したり、互いの図書館便りを掲示したりしている。	A	教育センター

整理番号	区分	対象	取組名	内容	令和3年度実績	達成度	担当課
7	認定こども園等(2)	乳児幼児	「子ども読書の日」の啓発・広報の推進	4月23日の「子ども読書の日」に合わせ、各園の実情に応じて、お便りの発行やおはなし会などを行い、保護者と子どもに読書の楽しさや大切さを伝えていきます。	「子ども読書の日」のポスターを玄関など保護者の目につきやすいところに掲示した。	A	こども園課 幼保支援課
8	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	「子ども読書の日」関連行事の実施	各学校では、4月23日の「子ども読書の日」に合わせ、お便りの発行や図書委員会のイベント、教員や保護者などによる読み聞かせ等などを計画し実施していきます。	「子ども読書の日」は年度初めのため関連行事を実施しにくい、オリエンテーションや掲示で啓発している学校が多い。また、年間を通して図書館便りの発行や読書推進イベントを静岡市立各小中学校で実施 令和2年度よりは、イベント等を実施する学校は増加したが回数や規模を縮小して実施した学校が多い。	小B・中C2	教育センター
9	図書館(4-1)	すべての子ども	「子ども読書の日」のイベント	多くの市民に子どもの読書活動への関心と理解を深めてもらうため、4月23日の「子ども読書の日」に合わせて、各図書館でイベントを実施します。	中央を除く11館で開催 128人参加 (中央は大規模改修工事のため開催できず)	A	中央図書館
10	認定こども園等(2)	乳児幼児	読書週間の絵本の貸出し	乳幼児向けの絵本の貸出活動に加えて保護者への子育て情報誌等の本の紹介やコーナーを設置をします。	年間を通して、園児には絵本の貸し出しをしている。また、保護者向けには図書館や教育委員会などから発行されている情報誌を置き自由に見ることができるようにしている。	A	こども園課 幼保支援課
11	その他関係機関(4-2)	乳児幼児 小学生	生涯学習施設での各種講座やイベントの開催	生涯学習施設では、子どもが読書に親しめるように、読み聞かせの会を行います。また、家庭教育学級では保護者が読み聞かせや読書の重要性を学ぶ講座等を行います。	開催回数 105回(24講座) ※新型コロナウイルス感染予防のため37回(3講座)の中止があった。 参加者数 1,458人 ※家庭教育学級については、連続プログラム内の一部であるため、計上しない。	A	生涯学習推進課
12	図書館(4-1)	すべての子ども	図書館の各種講座・イベント	図書館では、幅広いジャンルからテーマを取り上げて、講座やイベントを実施します。講座やイベントをとおして図書館に慣れ親しんでもらい、本との出会いの場を提供します。	全12館にて28回実施 969人参加	A	中央図書館
13	図書館(4-1)	乳児	ブックスタート事業	地域に生まれた全ての赤ちゃんのこころ健やかな成長と、子育て支援の環境の充実を目指し、市内9か所の保健福祉センターで行われる「6か月児育児相談」の機会に、その地域で生まれた全ての赤ちゃんと保護者を対象にメッセージを伝えながら絵本やイラストアドバイス集などが入ったブックスタートパックを手渡します。	全9保健福祉センターにて 177回実施 4,032組参加	B	中央図書館

整理番号	区分	対象	取組名	内 容	令和3年度実績	達成度	担 当 課
14	図書館 (4-1)	幼児	ブックスタート事業	ブックスタート事業のフォローアップ事業として、市内保健福祉センターで行われる「1歳6か月児健康診査」時に、読み聞かせの意義や方法、絵本の紹介等を行います。絵本をとおして親子のふれあいを図り、信頼関係を培うと共に、子どもの心の発達を促すことを目的としています。	全9保健福祉センターにて110回実施 3,643組参加	B	中央図書館
15	認定こども園等 (2)	乳児 幼児	毎日の保育の中での読み聞かせや紙芝居等の実施	読み聞かせや紙芝居など幼児が絵本や物語などに親しむ活動を、毎日の保育の中で積極的に行います。	子どもの年齢、発達、興味・関心にあった絵本や紙芝居を読み聞かせたり、日々の教育・保育に活かしたりすることができるように積極的に取り入れている。	A	こども園課 幼保支援課
16	認定こども園等 (2)	乳児 幼児	保護者やボランティアによるおはなし会等の実施	職員の読み聞かせなどの他に、幼児の発達段階に応じて、保護者や地域の読み聞かせグループ等による「絵本の読み聞かせ」「手遊び」「エプロンシアター」などのおはなしの会を行います。	令和3年度はコロナウィルスの流行により、保護者、ボランティアによる読み聞かせなどの会は実施できなかった。	C2	こども園課 幼保支援課
17	認定こども園等 (2)	乳児 幼児	利用しやすい絵本コーナーの設置と整備・充実	乳幼児が絵本に親しむ環境を保育室に整えたり、貸出絵本コーナーを設置し、随時子ども・保護者の要求や職員が提供したい本を整備し充実を図ります。	子どもたちが自分でお気に入りの絵本を手にとることができるように各保育室に絵本コーナーを設置している。また、貸出の絵本コーナーには椅子やカーペットなどを置き落ち着いて絵本を見ることができるようにしている。	A	こども園課 幼保支援課
18	認定こども園等 (2)	乳児 幼児	職員に対する読書指導等の研修の充実	絵本に関する研修会に参加し、職員への研修報告を実施したり、園内研修で絵本作家を招き研修を実施します。また、絵本のプロジェクトチームを結成し絵本購入の検討会を開いたり、自主研修へ参加したりします。	こども園課、保育士会主催の実践研修会で絵本の選び方や読み聞かせの仕方についての研修を実施した。また、各園の分掌が絵本や紙芝居の管理、購入などを行った。	A	こども園課 幼保支援課
19	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	読書の推進	小中学校では、子どもが読書に親しみ、読書する習慣を身に付けるため、教育活動の中に読書をする時間を設けます。	静岡市立小・中学校で実施。朝読書の時間を設けるのは難しくなっているが、読書旬間など読書に親しむ期間を設定し、時間を確保している。	B	教育センター
20	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	読み聞かせや本の紹介等のおはなし会の実施	小・中学校では、保護者や地域のグループによる読み聞かせや読み語り、本の紹介など、本に親しんだり本の楽しさにふれたりする機会を設けます。学校によっては、図書委員会の子どもが中心になって読み聞かせや紙芝居などを行います。	静岡市立小・中学校で実施。大型モニターや放送を活用するなど、感染症対策をしながら実施しているが、前年度と同等またはやや減少傾向にある。	B	教育センター

整理番号	区分	対象	取組名	内容	令和3年度実績	達成度	担当課
21	高校(3-3)	高校生	学校図書館の配架等の環境整備	学校図書館では、読みたい本、学習に必要な本を活用するために、子どもが利用しやすい配架や展示の工夫を行います。また、学校図書館の入り口や廊下などに新刊本のコーナーや学習に応じた特設コーナーを設けるなど、子どもの興味を引くような展示をします。	図書館の入り口側に新刊コーナー、入り口に近いところに小論文コーナー、進路関係コーナー、SSHコーナー、洋書コーナーを設置し、生徒の利用を促した。 新刊だけでなく、各種文学賞や本屋大賞(全国・静岡)に選ばれた本など、話題の本を特設コーナーで紹介した。書籍の背表紙ではなく表紙を見せるような向きで配架するなどの工夫をした。キャリア教育の一環として、職業にまつわる書籍や、小論文指導に役立つ書籍、大学パンフレット、赤本など、進路関係のコーナーをより充実させた。	A	教育総務課
21	小学校 中学校(3-1) (3-2)	小学生 中学生	学校図書館の配架等の環境整備	学校図書館では、読みたい本、学習に必要な本を活用するために、子どもが利用しやすい配架や展示の工夫を行います。また、学校図書館の入り口や廊下などに新刊本のコーナーや学習に応じた特設コーナーを設けるなど、子どもの興味を引くような展示をします。	静岡市立小・中学校で実施学習に応じたコーナーの設置や活用しやすい配架の工夫について学校図書館活用ガイドラインを参考にして環境改善を進める学校が増加。(中島中・南藁科小)	A	教育センター
22	学校(3)	小学生 中学生	校舎改築・増築・大規模改修事業	静岡県アセットマネジメント基本方針に基づく校舎等の改修、改築により、静かで快適な読書環境の整備を進めていきます。	清水入江小学校大規模改修・構造保全工事完了(令和4年3月完成) 清水両河内小中一貫校整備事業小学校棟校舎増築工事施工中	A	教育施設課
23	小学校 中学校(3-1) (3-2)	小学生 中学生	学校図書館の充実(図書整備)	内容が新鮮で読む人にとって魅力的な本や授業に役立つ本について、学校が整備充実させることができるように、一定の水準に照らし合わせて、毎年学校図書館の図書購入費の確保に努めます。	図書購入費 67,051,586円 図書保有数 1,378,197冊 小中学校数 128校	A	教育施設課
24	高校(3-3)	高校生	学習活動における図書館の利活用	高等学校では、「総合的な学習の時間」の学習活動における活用に加えて、進路指導や小論文指導などにおいても図書館を活用します。	美術、日本史、世界史、国語、英語などの教科指導において学校図書館を活用した。探究活動、進路指導、小論文指導のほか、自主学习場所としても学校図書館を利用した。自主学习場所としての需要の高まりに応え、PTAに協力を仰ぎ、19時までの開館時間延長を実施した。	A	教育総務課
24	小学校 中学校(3-1) (3-2)	小学生 中学生	学習活動における図書館の利活用	小中学校では、各教科や総合的な学習の時間の学習活動などにおいて、学校図書館や図書館を利活用します。子どもに提供する図書資料の充実を図るために、図書館の「団体貸出し」や「学校協力貸出し」の利用を図ります。また、学習活動の中で、図書館を利用した調べ学習や、図書館の見学(貸出カード作り、本の借り方指導)なども図書館の協力を得て行います。	静岡市立各小・中学校で実施多くの学校で、学校司書が授業支援として資料を収集し、調べ学習のために学校協力貸出しや団体貸出しを利用しての導入により、授業利用回数はやや減少傾向にある。	A	教育センター
25	高校(3-3)	高校生	学校図書館の人的整備の推進	高等学校では、すべての高等学校に学校司書を配置します。	各学校に1名ずつ学校図書館司書を配置された。	A	教育総務課

整理番号	区分	対象	取組名	内容	令和3年度実績	達成度	担当課
25	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	学校図書館 の人的整備 の推進	12学級以上の学校に司書教諭を、11学級以下の学校に学校図書館担当者を配置します。また、6学級以上の学校には学校司書を配置します。5学級以下の学校については図書ボランティアの協力を仰ぐとともに、学校司書が近隣校で兼務する方法を試行するなどし、配置拡充を検討します。	12学級以上の学校に司書教諭を、11学級以下の学校に学校図書館担当者を配置。また、児童生徒数55人以上の104校には専任の学校司書を配置。55人未満の19校には、教育センターの2名の学校司書を兼務で配置し、巡回訪問とオンラインレファレンスを実施。	A	教育センター
26	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	障害のある 児童・生徒 の読書活動 の推進	小中学校では、特別支援学級に絵本や紙芝居など、子どものニーズに合わせて学級文庫を設置したり、障害のある子どもも利用しやすいように学校図書館の貸出・返却方法を簡単にしたりします。	静岡市立各小・中学校で実施特別支援学級の児童生徒が授業利用する時間を設けたり、特別支援学級の児童生徒を考慮した選書や環境づくりが進められたりしている。	A	教育センター
27	高校 (3-3)	高校生	学校図書館 にかかわる 人の研修等 の充実	県教育委員会に依頼し、県立高等学校と一緒に実施します。	県教育委員会に依頼し、県立高等学校と一緒に実施した。	A	教育総務課
27	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	学校図書館 にかかわる 人の研修等 の充実	学校における読書活動の計画や学校図書館の運営についての教員研修や、資質向上を目指して子どもへの対応の仕方や図書館業務についての研修を行います。	新規学校司書対象1回 学校図書館担当者会1回 全校司書対象2回 オンラインセミナー1回(校長・教諭・学校司書など80名ほどが参加)	A	教育センター
28	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	図書ボラン ティアとの 連携の促進	小中学校では、保護者や地域の人々に呼びかけ学校図書館ボランティアを募り、担当の教員がボランティアとの連絡調整や活動をコーディネートします。活動内容は、本の読み聞かせ、本の受け入れ・廃棄・修理、本の貸出、返却、本の整理や書架の整頓、季節にあった掲示物作りなど学校の実情によって様々な協力を仰ぎます。	静岡市立各小・中学校で実施ボランティアを募り、読み聞かせや環境整備をしているが、コロナ感染症対策のため、実施をしなかった学校も多い。また、地域によってはボランティアが集まりにくい学校もある。	C2	教育センター
29	高校 (3-3)	高校生	読書指導計 画・年間活 動計画の作 成・活用	子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実をめざし、学校図書館の計画的な利用とその機能の活用を図るため、各学校で読書活動に関する年間活動計画を作成します。この活動計画によって、各教科等において学校図書館を活用したり、読書の楽しさを子どもに伝えたりします。	年間活動計画として、校内ビブリオバトル、読書会、ブックトークを実施した。ブックトークは、市立図書館と連携して実施した。また、学校目標の中に「1ヶ月に1冊本を読む」を位置づけ、毎月読書記録カードの集計を行い、図書館の積極的利用を呼び掛けた。	A	教育総務課
29	小学校 中学校 (3-1) (3-2)	小学生 中学生	読書指導計 画・年間活 動計画の作 成・活用	子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実をめざし、学校図書館の計画的な利用とその機能の活用を図るため、各学校で読書活動に関する年間活動計画を作成します。この活動計画によって、各教科等において学校図書館を活用したり、読書の楽しさを子どもに伝えたりします。	静岡市立各小・中学校で実施学校図書館活用ガイドラインに掲載されている学校図書館教育計画例や運年間計画例を参考に作成している。学校図書館教育計画や年間計画を作成し参考にしている学校が増加している。	A	教育センター
30	図書館 (4-1)	小学生	「ちよい読 み文庫」の 試行	子どもたちが本とふれあう機会を増やすため、「ちよい読み文庫」として校内の身近な場所に本を置き、すきま時間に読書に親しめる環境をつくります。いくつかの小学校の協力を得て試行し、その効果を検証します。	大谷・清水飯田・清水三保第一小学校の3校で本格実施	A	中央図書館

整理番号	区分	対象	取組名	内容	令和3年度実績	達成度	担当課
31	図書館(4-1)	中学生 高校生	YAのためのブックトーク	学校等からの依頼により、年齢や興味対象に応じてテーマを設定し、ブックトークを行います。	「ブックトーク」として2校11クラス352人参加 「読書回転寿司」として1校7クラス275人参加	A	中央図書館
32	図書館(4-1)	乳児 幼児 小学生	図書館の定例おはなし会	子どもに本への興味、関心を持ってもらうために、図書館職員や読み聞かせボランティアによる、ストーリーテリング、絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、折り紙等を実施します。	全12館にて407回実施 3,383人参加	A	中央図書館
33	その他関係機関(4-2)	乳児 幼児 小学生	児童館における読み聞かせの推進	児童館では、子どもの読書への関心を高めるとともに、保護者に対しても読書への関心をもってもらうため、読み聞かせやおはなし会を定期的に開催します。	市内13館 開催回数 244回 参加者 3468人 感染予防対策を講じながら開催した。	A	子ども未来課
34	その他関係機関(4-2)	乳児 幼児	子育て支援施設でのおはなし会	子育て支援センターやあそび・子育ておしゃべりサロン(子育て支援施設等で月1回程度未就園の親子を対象に行う子育て支援事業)において、保育士等によるおはなし会や読み聞かせを開催します。	実施場所多数および実施時期不定期的ため、開催回数等の把握が困難	-	子ども未来課
35	図書館(4-1)	すべての子ども	「団体貸出し」の有効利用の促進	市内の学校、家庭文庫、社会教育関係団体等を対象に、団体の読書活動支援のために「団体貸出し」を実施します。	全12館で実施 18,820冊貸出し	A	中央図書館
36	図書館(4-1)	すべての子ども	除籍図書館資料の各団体への提供	除籍資料のうち再利用可能な状態のものを学校など教育・福祉団体へ提供します。	4館にて 2,362冊提供	A	中央図書館
37	図書館(4-1)	すべての子ども	図書館児童コーナーの整備・充実	将来の可能性を秘めた子どもたちが、その可能性を十分に引き出せるよう幅広く本を選び、児童コーナーを充実させます。本の並べ方や表示の仕方を工夫します。また、展示コーナーでは様々なテーマで魅力的な児童図書の展示を行います。	児童書蔵書冊数 534,694冊	A	中央図書館
38	その他関係機関(4-2)	すべての子ども	生涯学習施設図書室整備事業	清水区の生涯学習交流館では、地域住民に本に親しんでもらえるよう、図書室や図書コーナーを整備し、図書の貸出しを行います。	船越生涯学習交流館の建替え(令和5年度完成予定)に伴う、図書室の設計を実施した。	A	生涯学習推進課
39	その他関係機関(4-2)	幼児 小学生 YA	科学館メディアライブラリーの整備・充実	静岡科学館る・く・るでは、来館した市民の閲覧用の図書コーナーを設け、科学や環境に関する様々な図書を整備します。	科学に関する図書を新規で48冊購入し、蔵書数1,509冊となった。	A	文化振興課
40	図書館(4-1)	乳児 幼児	ハローベビー赤ちゃんのための読み聞かせ講座	赤ちゃんや保護者の図書館利用の促進、赤ちゃんの健全な成長に役立つ本の紹介、赤ちゃんが生涯にわたって読書を楽しめるためのきっかけ作りを目的に、読み聞かせ初心者のお父さんやお母さんなどを対象とした読み聞かせ講座を実施します。	12館にて 33回実施 173人参加 (新型コロナウイルス感染予防のための中止あり)	A	中央図書館
41	図書館(4-1)	すべての子ども	子どもの本を学ぶ講座	児童書の豊かな世界にふれ児童文学をより深く学べる機会を市民に提供するために、静岡子どもの本を読む会と共催で子どもに関係した各分野から作家、画家、科学者等を招いて開催します。	新型コロナウイルス感染予防のため通常講座は中止 特別講座として1回開催 52人参加	C2	中央図書館
42	図書館(4-1)	乳児 幼児 小学生	南部図書館講座「子どもの本を楽しむ」	子どもにより良い読書習慣を身につけさせたい保護者を対象に、児童書や図書館についての理解を深めてもらうための講座を開催します。	新型コロナウイルス感染予防のため中止	C2	中央図書館(南部図書館)

整理番号	区分	対象	取組名	内 容	令和3年度実績	達成度	担 当 課
43	図書館 (4-1)	小学生 中学生	一日こかけ 文庫	遠隔山間地の地域住民、特に児童を対象として、読み聞かせ、工作、本の貸出等を開催します。	大河内小中学校など 4会場で実施 91人参加	A	中央図書館
44	図書館 (4-1)	YA	YAコー ナーの整 備・充実	ヤングアダルトを対象に児童図書から一般図書への橋渡しとしてヤングアダルト向けの図書コーナーを設け、利用されやすい環境づくりを目指します。	YAコーナー蔵書数 38,984冊	A	中央図書館
45	図書館 (4-1)	YA	「L m a g a z i n e」の発行	図書館職員、中高生を中心とした投稿者、市内学校司書等からの図書・視聴覚資料紹介を中心とした情報誌を発行します。	4回 2,453部発行	A	中央図書館
46	図書館 (4-1)	すべての 子ども	録音図書や バリアフ リー絵本等 の整備・充 実	障害のある子どもたちが、豊かな読書活動ができるよう、録音図書、点訳絵本、さわる絵本等の充実を促進します。	点字付児童書88点 音訳児童図書127点	A	中央図書館
47	図書館 (4-1)	すべての 子ども	御幸町図書 館の多言語 サービス	外国人住民や異文化に関心をもつ市民のために、英語・中国語・ポルトガル語等の図書・雑誌・CDや、日本語教育の図書を整備します。	ピクチャーブック・リーディング 3回実施 57人参加	A	中央図書館 (御幸町図書 館)
48	図書館 (4-1)	すべての 子ども	図書館の読 み聞かせボ ランティア 養成講座	本と子どもを結びつけるために、地域で活動する読み聞かせボランティアの育成を行います。	新型コロナウイルス感染予防 のため中止	C2	中央図書館
49	図書館 (4-1)	すべての 子ども	図書館職員 の研修等の 充実	児童サービスおよびYAサービス担当職員の専門性を高めるため、研修の機会を充実させるとともに、自主的な研究を奨励します。	国際子ども図書館特別研修会 ほか 6研修会 71人参加	A	中央図書館
50	図書館 (4-1)	すべての 子ども	子ども向け ホームページ の充実	子どもたちが自主的に本や読書について興味や関心をもてるよう、子ども向け図書館HPを更新していきます。	大幅改訂した子ども向けパス ファインダー「ブック通リス ト+」をアップ	A	中央図書館
51	図書館 (4-1)	小学生 中学生 高校生	図書館訪問 の受入れ	授業の一環として行われる図書館見学や、調べ学習による来館調査などに対応し、図書館に対する理解を深め、読書への関心・興味につなげます。	全12館にて 73クラス 1,566人受入れ	A	中央図書館
52	図書館 (4-1)	小学生 中学生 高校生	職場体験学 習の受入れ	子どもに業務の一環としておはなし会や児童・ヤングアダルトコーナーの整理等を体験してもらうことにより、読書への関心・興味につなげます。	9館にて 21人受入れ	A	中央図書館
53	図書館 (4-1)	乳児 幼児 小学生	出前講座に よる読書指 導	地域・機関からの依頼により、保護者や地域で活動するボランティア等に対し、読み聞かせの指導講座や児童書の選書講座等を実施します。	29回実施 1,187人参加	A	中央図書館
54	その他 関係機 関 (4-2)	すべての 子ども	男女共同参 画の視点を持 った絵本等 の紹介	男女共同参画の視点を持った絵本等のリストを作成し、紹介します。	市立図書館あて絵本リストを 作成し、紹介した。	A	男女共同参 画・人権政 策課
55	図書館 (4-1)	小学生 中学生 高校生	「学校協力 貸出し」	学校の総合学習や調べ学習で図書館の本を有効に活用してもらうため、学校が必要とする本を図書館職員が選書して貸出をします。	全12館にて 22,278冊貸出し	A	中央図書館

整理番号	区分	対象	取組名	内 容	令和3年度実績	達成度	担 当 課
56	図書館 (4-1)	小学生 中学生	「学校用図書館利用案内」の配布	図書館では総合学習・調べ学習で図書館を有効に活用してもらうため、各小中学校に、毎年「学校用図書館利用案内」を配布します。	静岡市立小中学校に配布 500部発行	A	中央図書館
57	図書館 (4-1)		静岡市子ども読書活動推進会議の運営	本計画の効果的な推進のために「静岡市子ども読書活動推進会議」を設置し、関係機関の取組の継続的な進行管理を行うとともに、計画全体の進捗状況を評価して、必要に応じて事業の見直しを行っていきます。	書面にて1回開催	A	中央図書館

●事業を実施している課ごとの取組状況を掲載しています。

●達成度は、下記の基準でA、B、Cで評価しています。

A：取組内容のとおり順調に実施されている。

B：取組内容に従って実施されているが改善の余地がある。

C1：取組が遅れている、または実施していない。

C2：新型コロナウイルス感染予防のため取組が遅れている、または実施していない。

6 子どもの読書環境を取り巻く状況と本市の課題

○ 不読率の上昇

静岡市における不読率 ※（）内は全国の不読率 (%)

	平成 30 年	令和 1 年	令和 2 年	令和 3 年
小学生	3.4(8.1)	0.05(6.8)	1.53(—)	0.99(5.5)
中学生	13.9(15.3)	8.2(12.5)	4.26(—)	12.9(10.1)
高校生	—(55.8)	—(55.3)	—(—)	—(49.8)

※令和 2 年は全国の調査は未実施

(学校読書調査(公益財団法人全国学校図書館協議会)より)

全国における不読率は、全国一斉臨時休業もあり令和 3 年度に一度改善しましたが、現在は上昇しており状況が悪化しています。

静岡市においては、第 3 次計画の最終目標「小学生・中学生ともに 0%」は未達成ながら、小学校においては、ほぼ 100%に近い割合の学校で朝読書や読み聞かせ、読書イベント等に取り組んでおり、学校図書館の機能を活用した授業も積極的に行われているため、不読率が 0%に近い割合まで到達しました。

中学校における不読率については、小学生に比べるとやや増加傾向にあり、本に親しむ時間の確保も難しくなっています。

不読率の改善には就学前からの読書機会が重要とされており、図書館は、乳幼児期への取組として、市内の子どもすべてに対し、6 か月児育児相談時に絵本 1 冊を配布するブックスタート事業や、1 歳 6 か月健診時(蒲原のみ 2 歳健診時)に読み聞かせについての冊子を配布するブックステップ事業を、コロナ禍ではありますが、各保健福祉センターやボランティアと連携して実施しています。

子どもの発達段階に応じた読書機会の更なる充実が求められています。

○ 多様な特性の子どもたちの増加

全国的に、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、小・中・高等学校の通常の学級に在籍しながら通級による指導を受けている児童生徒及び日本語指導を必要としている児童生徒が増加しています。

静岡市においても上記のような子どもが増加しており、図書館では令和 4 年度から大活字の児童図書の所蔵を開始し、113 冊の資料を購入しましたが、資料数はまだ不足しているため、今後も更なる充実が求められています。

学校図書館においても多様な対応が必要だと考えています。令和元年度に教育センター内に学校図書館支援室ができ、市立図書館と協力しながら各研修会を実施してきました。資料の充実だけでなく、継続的な人材育成も求められています。

○ 読書環境のデジタル化

学校現場においては GIGA スクール構想が進められており、静岡市は、令和 3 年度末までに、市内全ての小・中学生に一人一台端末が支給され、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、授業での端末利用が進んでいます。今後は、探究的な学習等で、本とインターネットのベストミックスな活用が求められています。

公立図書館における電子図書館の設置も全国的に進んでおり、静岡市でも、現在電子図書館の導入を検討しています。図書館としても、今後はICT^{*5}を活用した読書活動の推進が求められています。

○ 読書活動啓発の推進

読書活動の啓発については、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第10条第3項の規定により、子ども読書の日の趣旨に沿った事業が各自治体で実施されています。

近年では、本の紹介コミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」が急速に広まっており、静岡市の中学校においては、専門委員会の生徒を主体としてビブリオバトルが開かれたり、キャッチフレーズで本を紹介したりするなど、工夫した啓発活動が行われています。

静岡市の読書啓発に取り組んだ学校の割合 (%)

	H30	R1	R2	R3	R4 目標
小学校	94.2	100	90.0	98.7	100
中学校	79.1	88.8	78.9	81.1	100

第3次計画の最終目標、小学生・中学生ともに100%は令和3年度時点で未達成ではありますが、高い割合で実施できています。引き続き小中学校における啓発活動を推進していきながら、今後は高校での取組も把握した推進が求められています。

また、現在保育施設や学校、図書館等で作成した子どもの発達段階に応じたブックリストを配布することで、読み聞かせ等による読書啓発の一助としています。

図書館で作成している「ブック通リスト」は、調べ学習に役立つ本やインターネットのサイトの情報も挙げられているため、読書啓発としてだけでなく、授業での活用も出来るような取組が求められています。

○ 関係機関の連携・協力

保育施設等の絵本の蔵書数に格差があることから、図書館は団体貸出等を行い、全ての子どもがより多くの本にアクセスできる読書環境の整備に努めることが重要です。学校現場では、地域の図書館等の活用を積極的に図り、資料による情報活用等の学習活動を充実させることなどが求められています。図書館は、各施設と連携するとともに、地域における多様なボランティア活動を行うための機会や場所を提供することも求められています。

静岡市における小中学校に対する学校協力貸出しについては、図書館が受取時間を延長したり、学校での教師に対する周知が進んだこともあって、当初の目標であった貸出冊数10,000冊以上を早々に超えたことから、令和元年度の間見直しで、目標の貸出冊数を15,000冊以上に上方修正しました。この目標もすでに達成していることから、協力貸出しについては一定の成果を上げていていると考えています。

ただ、協力貸出しを未だ利用したことがない学校もあることから、図書館と学校図書館が連携して取組やその効果をより一層周知していく必要があると考えています。

-
- *4 「G I G Aスクール構想」：「全国の児童・生徒に1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる」とした文部科学省の取り組み。「G I G A」は「Global and Innovation Gateway for All」の略で「全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉」を意味する。
- *5 「I C T」：「I C T」は「Information and Communication Technology」の略で「情報通信技術」を意味する。コンピュータ単独で使うだけでなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有することも含めた幅広い言葉。